（別紙１）

京都市動物園　京都の森　育成５年計画

目標景観の方針設定

●森林景観としての育成

現状は植栽後の年数が浅く、森に例えると亜高木層（中木層）が主となっているため、
植栽木の生長を促し高木層を育成しながら、その日陰の発達ののちに
低木層を植栽することで、森林景観としての階層構造の形成を目指します。
山野の低木・地被類の植栽により、来園者が四季を楽める空間づくりを進めます。

また、現在は落葉樹が大勢を占めているため、秋の紅葉の後は景色がさみしい上、
京都の森エリアの棚田から奥へ向かって、動物のゲージ、敷地外の住宅まで
視線が通り抜けてしまうため、常緑樹の補植を進めることにより、
森の背景的な常緑の木立を形成するとともに、ゲージや住宅への視線を和らげます。

また、モミジの補植により、来園者に喜ばれる紅葉の景観づくりを行います。

●里の景観づくり

里の植物（樹木、足元の植物など）の補植を進めていくことにより
里の景観づくりと、来園者のお楽しみ要素を、より展開できるようにしていきます。

景観の生育状況を毎年確認を行い、補植する植物の位置や種類を再検証しながら、京都の森の育成管理を実施していきます。

（補植を行う計画年数、本数などの現時点の目安は右の通りです。）

施肥による植栽木の育成を継続的に実施。

1年目（H28年度）

●目標景観の方針設定
●常緑高木・モミジの補植

2年目の目安

●在来種の常緑高木（シイ・カシ等）H4mクラスを5本　補植
●里の植物（カキ）H4mクラスを2本　補植

3年目の目安

●在来種の常緑高木（シイ・カシ等）H4mクラスを5本　補植
●里の植物の補植

4年目の目安

●在来種の常緑高木（シイ・カシ等）H4mクラスを数本　補植
●モミジの補植

5年目の目安

●高木による日陰の形成が進めば、林床に在来種の低木・地被類を補植

”京都の森”の育成管理を持続的に実施

京都市動物園樹木平面図

京都の森　育成5年計画図　<2017年度から2020年度までの補植候補位置>

＜ 補植の候補植物 ＞

在来種の常緑高木の候補位置
H4mクラス
ツブラジイ・アラカシ等

カキノキの候補位置　H4mクラス

<里の植物>の主な範囲

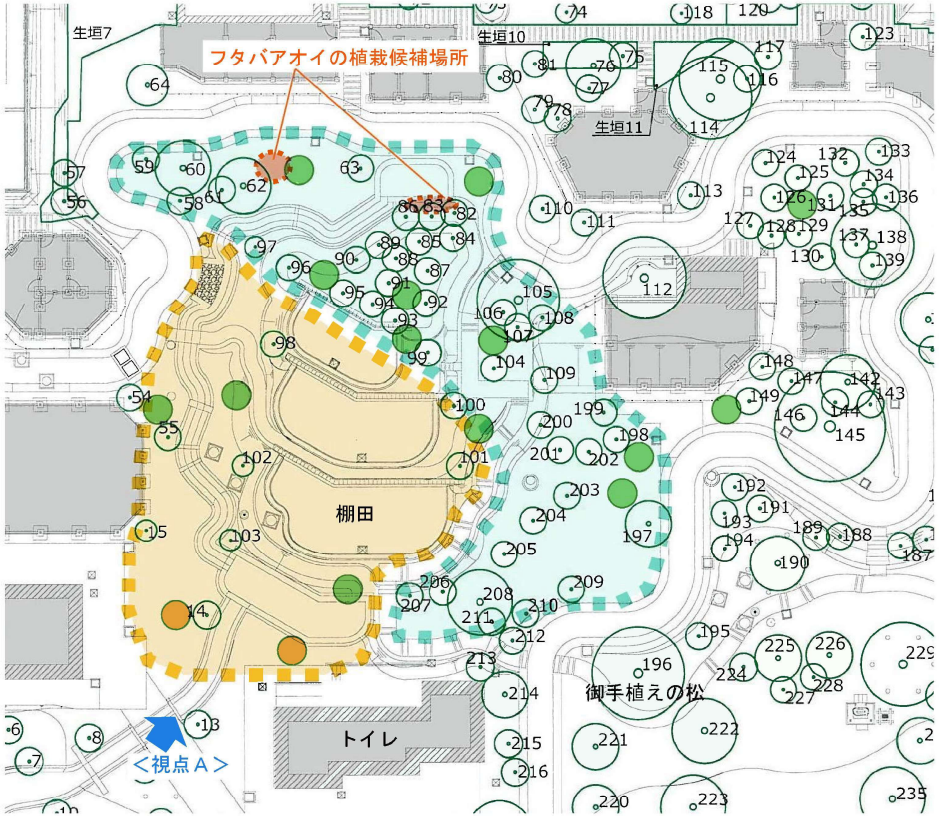
低木：
サンショウ、ハギ、チャノキ、ミツマタ等

地被類：
アザミ、カタバミ、ススキ、スミレ、タンポポ、ツクシ、ミズヒキ、ヨモギ、ﾚﾝｹﾞｿｳ等

<森の植物>の主な範囲

低木：
アセビ、コバノミツバツツジ、ヤマアジサイ、モチツツジ等

地被類：
フタバアオイ、スミレ、シダ類、ヤブコウジ等



＜視点Ａ＞

2017年2月の姿

補植後のイメージ